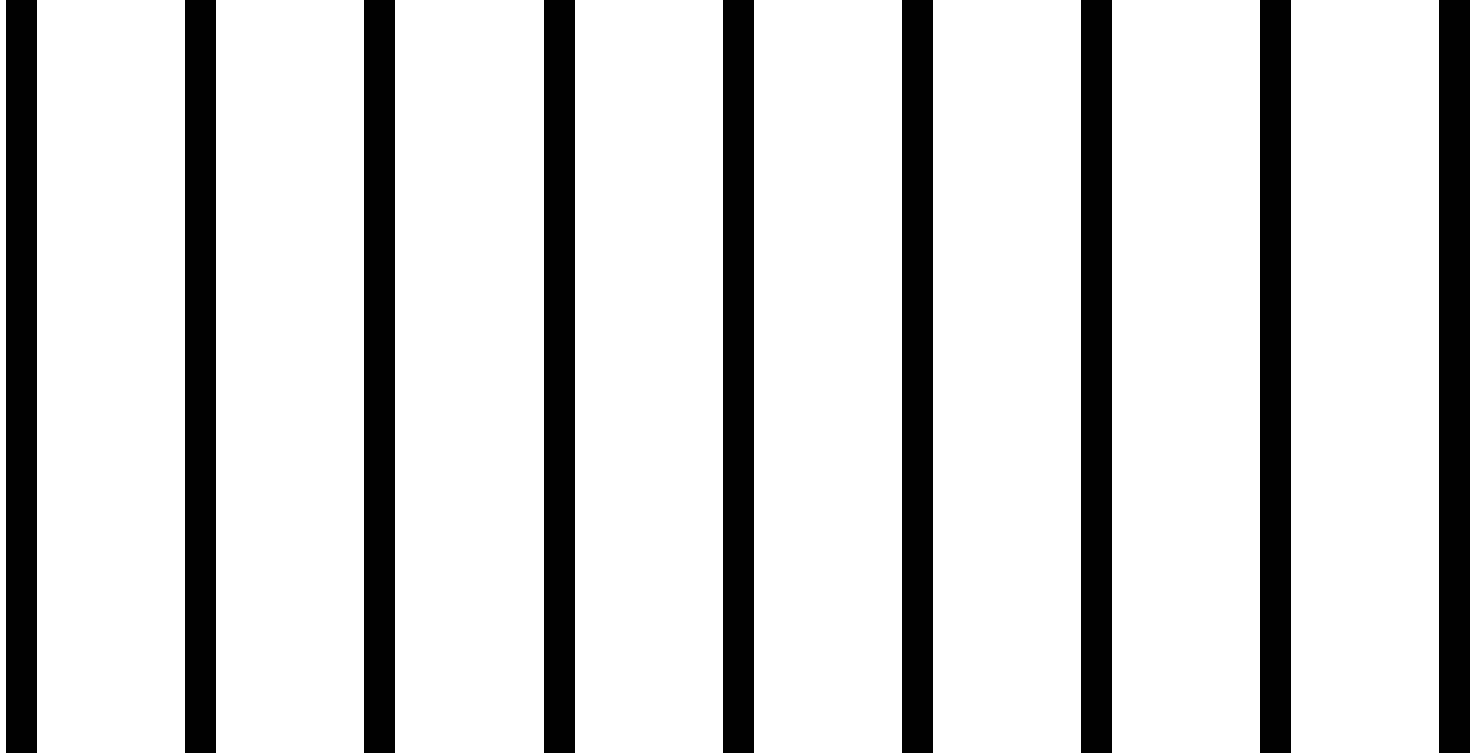




PRISON ART PROJECT

想いをアートに
アートを寄付に
寄付を希望に

実施報告書
2024

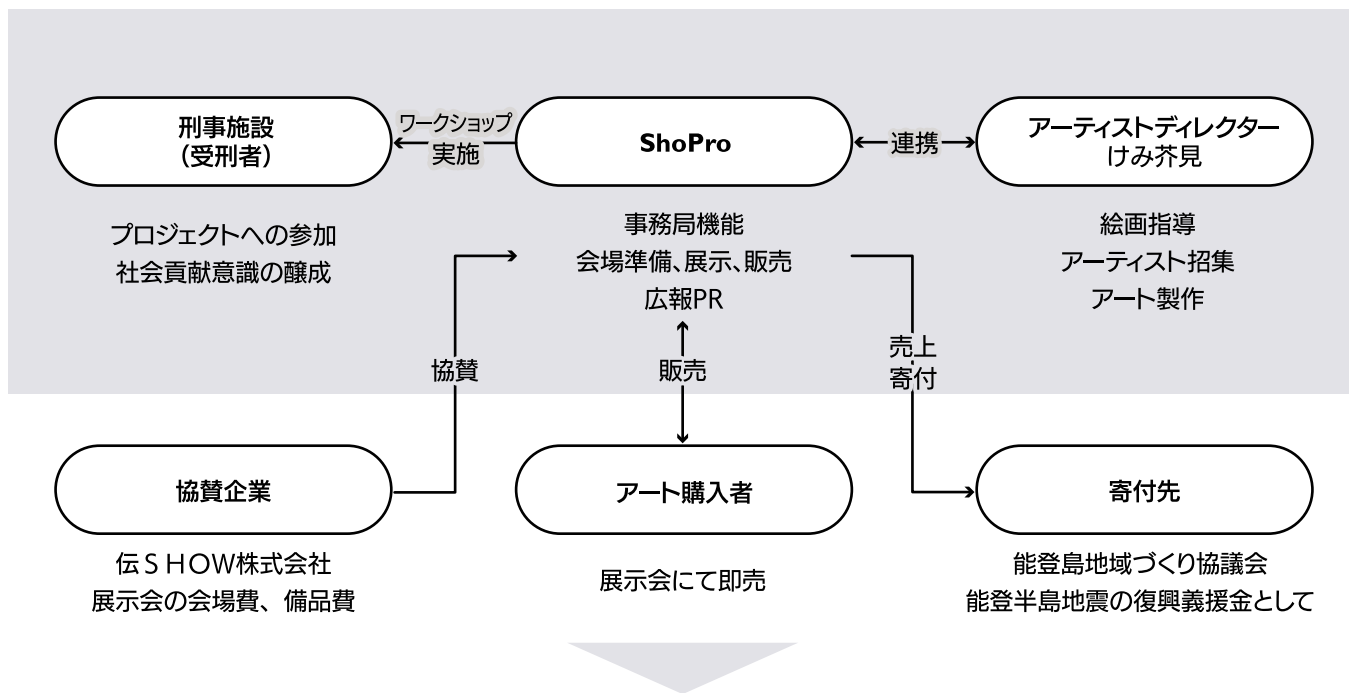
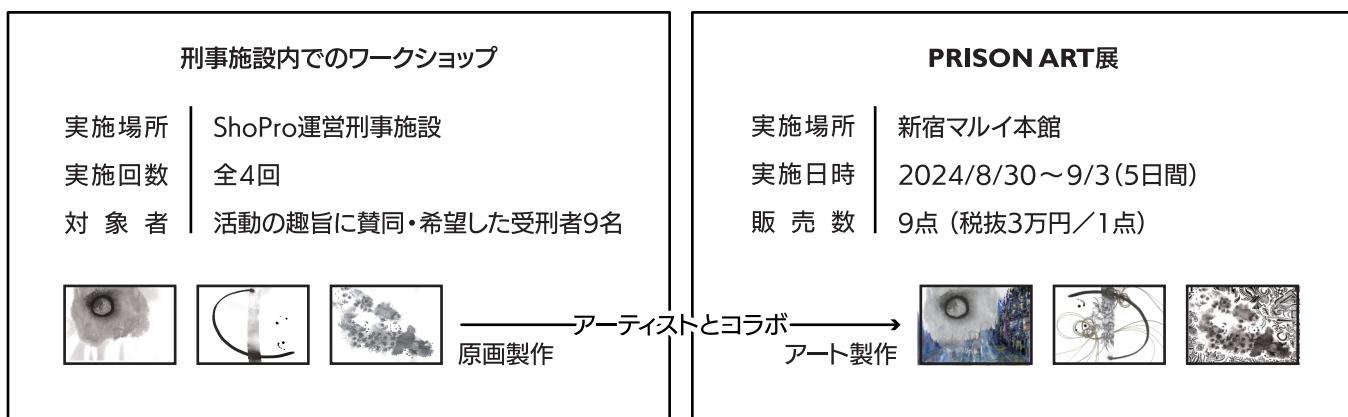
0 | PRISON ART PROJECT とは

「売上を社会に寄付する目的で絵をかくことは、受刑者の再犯防止にどのような影響があるだろうか。この作品を見た社会側は、受刑者という存在をどのように認識するだろうか。」そんな、思い付きからスタートした企画だったように思います。

第1回のワークショップから受刑者が前向きに取り組んでくれたことに驚き、アーティストが完成させた作品が手元にそろった時、全作品が完売した時には心が震えました。今回、龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンターのご協力により vol.1 の実施報告をまとめることができました。企画の全容がわからない中協力していただいた刑事施設とその受刑者9名にも感謝しています。PRISON ART はこれからも続けていきます。2025年には vol.2 の実施を予定しています。

PRISON ART PROJECT 概要図

PRISON ART PROJECT は、2024 年より始動した受刑者とアーティストがアート作品を共同制作・販売した売上を社会に寄付することで、受刑者の再犯防止と社会における再犯防止の理解促進を目的とするプロジェクトです。1 年目となる今回は小学館集英社プロダクションが運営している刑事施設に収容されている男性受刑者9名が参加しました。



受刑者への効果・目的

被災地への寄付を通した社会貢献意識の醸成
アート、寄付に込める思いを表現することでの自己振り返り

社会への効果・目的

本活動、アートを通して再犯防止についての理解促進
売上を地域団体に寄付することによる地域活動活性化

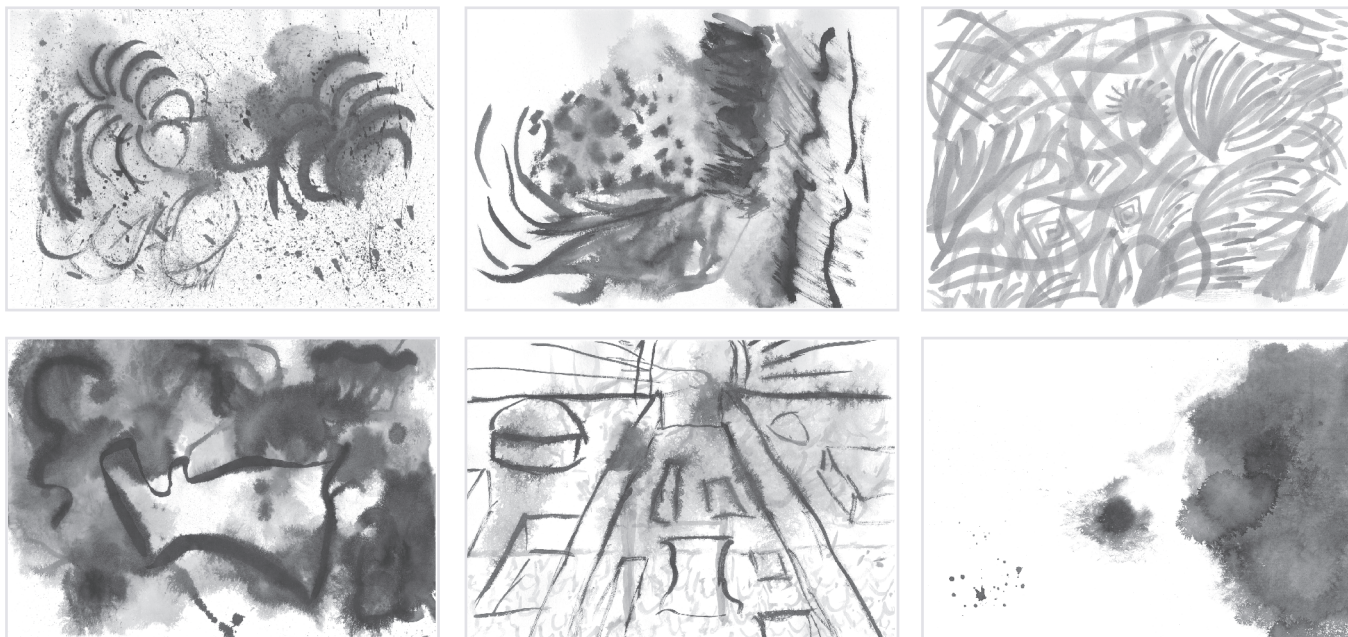
02 刑事施設内でのワークショップ

今回の PRISON ART PROJECT において刑事施設の受刑者と計 4 回にわたるワークショップを実施しました。ワークショップでは、アートの元となる墨汁での原画制作や完成品のお披露目、寄付の報告などを行いました。

ワークショップ第1・2回 原画制作

導入で本企画の趣旨を説明したのち、アイスブレイクも踏まえ初回から原画制作に取り組みました。受刑者が様々な想いを込めた墨汁アートにアートディレクターであるけみ芥見氏が霧吹きを吹きかけることで風合いを変化させたり、時には絵の指導などをする中ですでにコラボアートのような原画が多数生まれました。

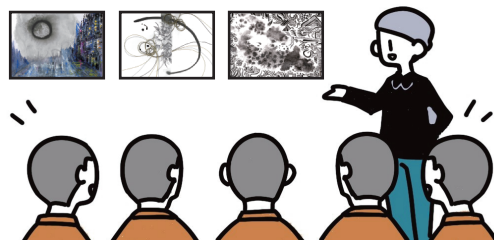
受刑者たちはとても意欲的に作品制作に取り組んでおり、2日間で用意した 200 枚以上の画用紙をすべて使い切るほどの作品が誕生しました。その 200 点以上の作品の中から、アーティストがコラボする原画 9 点が選ばれました。



制作原画の一部

ワークショップ第3回 完成品お披露目・受刑者メッセージの作成

第3回では、受刑者が制作した原画にコラボアーティストが手を加えた完成アートのお披露目が行われました。受刑者たちからは想像以上の出来栄に大きな歓声が上がりました。お披露目会の後、PRISON ART 展でも展示をした受刑者のメッセージ制作を行いました。本企画に参加した想いや、コラボアート・アーティストからのメッセージを受けて感じたことなど様々な言葉が紡がれました。



ワークショップ第4回 寄付報告

第4回では、PRISON ART 展を実施し能登島への寄付を行った後に、展示会の様子、能登島の現状や寄付の様子について参加した受刑者へ伝えました。PRISON ART 展にて販売した9点のアートがすべて完売したことを伝えた際には大きな喜びの他にも、安堵した様子を見せる受刑者がいました。

一方で能登島の現状について話した際には、未だ能登は復興の途中であること、被災当時の話に真摯に耳を傾けている様子が印象的でした。第1回 PRISON ART PROJECT の締めとして、受刑者に自身が担当したコラボアートのポストカードを配布し、皆がコラボアートに出所後の社会復帰を誓って計4回のワークショップが終了しました。

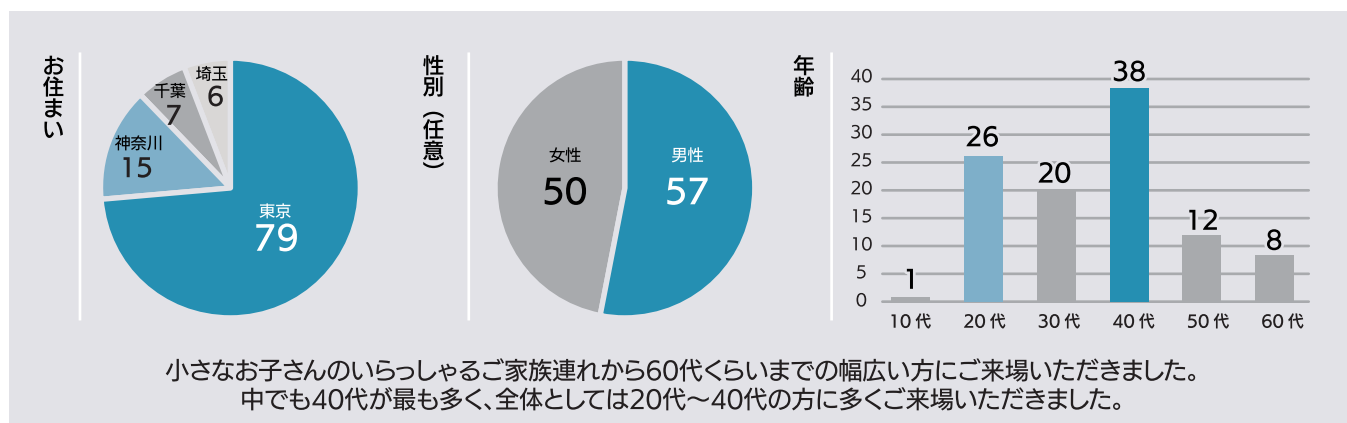


03 PRISON ART 展

PRISON ART PROJECT の第一弾として、9 名の受刑者と 9 名のアーティストの共作により、9 点のアート作品が誕生しました。完成したすべての作品をご覧いただける展示販売会を「PRISON ART 展 vol.1」と題し、新宿マルイ本館にて開催いたしました。

PRISON ART 展 実施概要

期間	2024/8/30 ~ 9/3 の5日間
会場	新宿マルイ本館
成約作品	9 点 (完売)
売上	270,000 円 (税抜・額装代除く)
来場者数	194 名



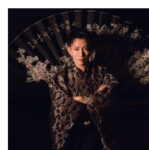
展示会当日の様子

参加アーティスト



PRISON ART アートディレクター けみ芥見

岐阜県岐阜市生まれ。美術家の母の下、絵画、陶芸などに触れて育つ。2012 年より本格的な芸術活動を開始。単身パリに渡りヨーロッパでの創作活動を開始、パリ現代アートの中心マレで個展デビュー。日本のモダンな美を世界に向けて発信し、日本国内より海外での個展・イベント招聘が多いアーティストの一人。



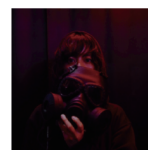
彫師美漸 -Bizen



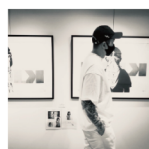
彫師菜凜灼 -Mariya



彫師界蝶 -Kaira



彫師 ROJA



YASU LEE LOW



AlmeriA



Junpei Hagihara



親方



完成作品

solar eclipse 受刑者 Mr.N × アーティスト YASU LEE LOW

アーティストコメント

この度は作品のコラボレーション企画が出来まして大変光栄です。自分としてはこの作品を見たときに太陽（日食のイメージ）がありました。自分の専門のストリートアートをアクリルでアレンジして、街の明かりを表現しました。

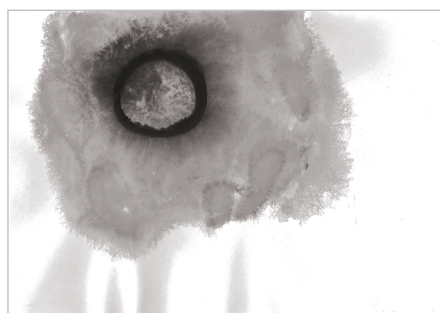
皆同じ太陽の下生きている

道はすぐそこにある

その気持ちで描き上げました。

受刑者 Mr.N の本作品へのコメント

私は、かつて過ちを犯し、今刑務所に収容されています。受刑生活を一日一日、罪を犯した自分と向きあい、更生に向けて生活をしています。私の関わった作品がどのように受け取られるのか不安はありますが、本当に被災された方々や能登の地域が一日もはやくよくなりますように、と気持ちを込めて絵をかきました。アーティストの皆様の助けをいただき、PRISONART をやり遂げることができました。素晴らしい作品をありがとうございましたと伝えたいです。



原画



完成作品



原画

RE start 受刑者 Mr.A × アーティスト彫師 - ROJA

アーティストコメント

貴方の過去を私は知るコトはないでしょう。

蛾は「光」を求め変化をし、有刺鉄線は人勢の葛藤と立ち直りを表します。貴方へ短剣「勇気」とバラ「人の愛情」を私から送ります。光は人間を惑わします。

どうか真実の眼で世界を見てください。

受刑者 Mr.A の本作品へのコメント

現在の自分は、かつての自分の浅はかな考えが招いてしまった結果であり、なんて馬鹿なことをしてしまったのかと後悔する毎日です。自分の意見に同意してくれる人たちだけを見て、そうでない意見には、たとえそれが正しいものとしても、聞く耳を持つことができませんでした。私は、出所してからが本当の反省、本当の謝罪のはじまりと考えています。刑務所の中で生活していると、被害者の方の現状がわかりません。出所後に、弁護士を通じて被害者の方への対応をしていきたいと思っています。今回の PRISONART に参加できたこと、アートのすばらしさを実感することができたことを、とてもありがたく思っています。



完成作品



原画

RISE UP 受刑者 Mr.O × アーティスト Junpei Hagihara

アーティストコメント

日が何度でも昇るように、

あなたが昇る道も、きっとある。

その先には、和やかに煌めいた光が射す。

受刑者 Mr.O の本作品へのコメント

被害者の方に一生消えない心の痛みを与えてしまい、本当に申し訳ないことをしてしまったと心から後悔しています。必ず更生して償いたいと思っています。自分がかつて地震の被害を目の当たりにしたこともあり、少しでも能登の人たちの役に立ちたいと思い、今回 PRISONART に参加しました。私一人の力はたかが知れていますが、アーティストの力をかり、力を合わせることで立派な作品に仕上がったと思っています。この作品を見て何かを感じていただけたら幸いです。完成したアート作品とアーティストからいただいたメッセージを決して忘れることなく、今後の人生を歩んでいきたい、今後の人生の糧としていきたいと思っています。





完成作品

結 - musubi - 受刑者 Mr.I × アーティスト彫師 - Mariya

アーティストコメント

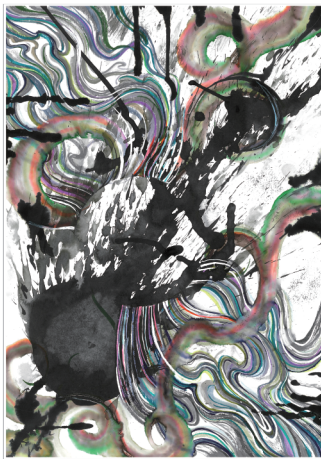
厳しい冬を越え、春に先駆けて咲く花のように、
結び目は固く、簡単に解けないように、
繰り返すことがないように。
結ばれたご縁が 続きますように。

受刑者 Mr.I の本作品へのコメント

アーティストの方々には、受刑者である私に対して色眼鏡で見ることなく向き合ってくれたことを感謝しています。私は、今までの人生で絵をかいたことは一度もありません。芸術的なセンスもなく、ただ、社会との関わりを持ちたくて、被災地のために何かしたくて、今回参加しました。そんな私の絵に、素敵なアーティストの方々が手を貸してくださり、こんな素敵な作品ができたと思っています。今後の人生でも、何かに興味を持った時、やったことがないからで終わらずに何事にも挑戦し、自分の持ち味にしていけたらいいな、と考えています。



原画



完成作品



原画

帆螺 受刑者 Mr.P × アーティスト彫師 - Kaira

アーティストコメント

この絵を描く時、あなたはゴールが見えていましたか。
生きる土台の見つめなおし、古いものの整理、これからの流れに合うものを取り入れたり、どんな現実を選んでいくのか。あなたについても、自分自身についても深く考える時間となりました。完成したこの作品について、言葉が追いつくのは、ずっと後のことになりそうです。普段慌ただしい生活をしていても創作に向き合うと違う世界に行けますね。その世界をより楽しめるよう、より心地よい表現方法を編みだしたり、自己尊重できるように、こうありたい自分に向けてなにか意志を持ってみたいあたらしい計画をはじめてみたい、一步をふみ出すきっかけにお互いがなれたらうれしいです。

受刑者 Mr.P の本作品へのコメント

完成した作品を見て、すごい、プロのアーティストは違うと驚きました。どうやって書いたのだろう、色のバランスがすごくいいと思いました。PRISONART の良いところは売り上げが被災された地域に寄付されることだと思っています。もし第2回があるならまた必ず参加希望したいと思っています。このプロジェクトが頻繁にあるとよりよいと思います。



完成作品



原画

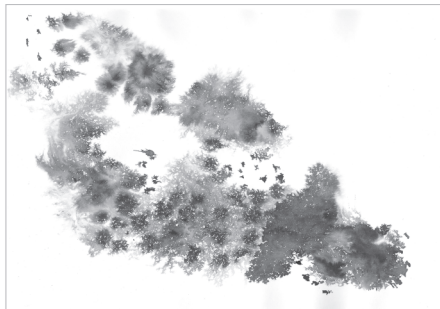
月と鯉 受刑者 Mr.R × アーティスト彫師 - Bizen

アーティストコメント

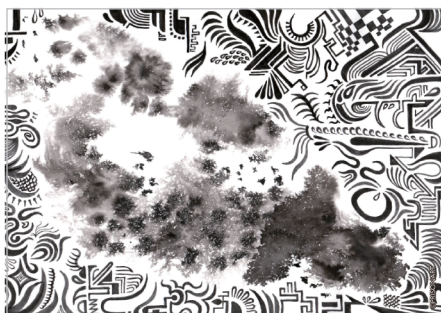
「昇り鯉、鯉の滝登り」は鯉から龍へと変化出来た伝説の由来から「成功へ導く難しい関門を突破した」「立身出世」の象徴。「月」は太陽の光を優しく受け止め、暗闇を照らす「安らぎ」と「優しさ」といった意味があります。月は満ち欠けで形を変えるため、成長の象徴ともされ「新しい自分へ」という意味があります。初めて絵を拝見した時に「荒波や雲」を思わせるような迫力がありそして一部「月」に見える所があると感じました。元の絵を活かせるようにこの一部を月に例え背景を波や雲にするという構図を作りました。今後の応援の意味を込め、今日このような絵を描かせていただきました。新たなスタートを応援しております。

受刑者 Mr.R の本作品へのコメント

今回、アーティストが完成させてくれた作品やメッセージを見て、罪を犯してしまった自分自身が捨てきれない希望だったりをくみ取って作品にしてくれたように感じ、感動しました。今回の PRISONART を通して、もしも出所後に後ろ指をさされるようなことがあっても、これからの生き方、社会への貢献をもって、胸を張っていけるような強い人間になりたいと思っています。



完成作品



原画

人生行き当たりバッチリ 受刑者 Mr.T × アーティストけみ芥見

アーティストコメント

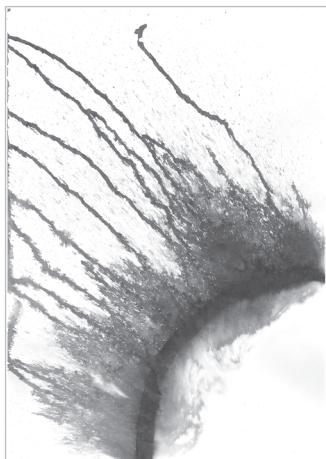
今後も人生いろいろ
差別や偏見を感じて生きる事になるけど
家族や友達、味方は必ず居るから
その事だけは忘れないで欲しい
常に「人生行き当たりバッチリ」の気分で進んで
あ、もう戻っちゃいかんよw

受刑者 Mr.T の本作品へのコメント

私はこれまでの人生でたくさんの人を傷つけてきました。これからは人を助けることはできなくても、人とつながり、人を支えることができる人間になれるように頑張っていきたいと思っています。そのはじめの一歩になるという気持ちで今回の PRISONART に取り組ませていただきました。
出所するのはまだ少し先になりますが、再犯をしないこと、更生することをこの作品に誓います。



完成作品



原画

Dear NO NAME

受刑者 Mr.R2
× アーティスト AlmeriA

アーティストコメント

絵や作品とは、その人の中にある価値観やその時に置かれた状況、育ってきた環境や想い。それらによって観たときに感じるものが人によって違ってくる物で、それでいいと思っています。僕はそれを「想いの余白」と呼んでいます。もし今あなたが何者でもなくて、何も成し得ていないのだとしたら、それは逆を言えば「何者にでもなれる」って事ですよ。それで良いんじゃないですか？あなたの人生の想いの余白をもう一度見つめ直してみてください。僕らはみんな「NO NAME（何者でも無い）」そんな思いをあなたの絵から受け取りこの作品ができました。この作品は紛れもなくあなたが生んだ作品です。だからこの作品に出会わせてくれてどうもありがとうございます。

受刑者 Mr.R2 の本作品へのコメント

自分が下絵でイメージしたのは「太陽」だったのですが、全く予想だにしない作品が出来上がって驚きました。自分自身、受刑生活を送る中で、被災地に対し何も力添えできない自分を恥ずかしく思っていました。この活動を通じて、少しでも被災地の支援ができれば、という想いで絵をかきました。完成した作品に何か感じていただけるのであれば幸いです。



完成作品



原画

祈り 受刑者 Mr.S × アーティスト親方

アーティストコメント

迷うな！

受刑者 Mr.S の本作品へのコメント

私は今、塀の中にいます。今回、能登に想いを届けるチャンス을いただき、絵をかき、アーティストの方に完成させていただきました。もともと絵をかくのは好きだったのですが、今回は被災した能登地方に何かしたい、という想いで PRISONART に参加しました。自分の中では、復興や笑顔につながってほしい、そんな思いを込めて下絵をかきました。私がかいたのは、能登の方々に捧げる華です。そこにアーティストが、祈りの手を加えてくれました。私はこれを能登の方々への祈りと解釈し、素敵だなと思いました。

来場者の感想・受刑者へのメッセージ(一部)

- 想像以上に、展示や空間から、また各々メッセージから感じるものがありました。
- 絵がスキなので興味がありました。素敵です！！
- 自分の表現したものが作品になるという経験を通して刑務所においても社会とつながっていることを感じてもらえると思います。常に社会とつながっていることを思いながら生活を送ってください。

04 売上を被災地に寄付

PRISONART 展 vol.1 にて販売したアート作品の売り上げの一部を、ご縁があり能登島地域づくり協議会へ寄付させていただきました。令和6年1月1日に発生した能登半島地震で被災した能登島地域で、「能登島を見直す、考える、広める」を趣旨に活動されている団体です。今回の寄付金の用途について、このようなご連絡をいただいています。

「地元の木工デザイナーによるワークショップを実施し、こどもが地元の木を使ったベンチを作り、コミュニティセンターの芝生や裏山の展望台に、みんなで作ったベンチを設置したいと思っています。(能登島地域づくり協議会担当者)」

寄付結果

寄付金	216,000 円 (売上の 8 割)
寄付先	能登島地域づくり協議会
寄付金用途	みんなでつくるベンチのワークショップの実施 (予定)



寄付に際して

能登島は、元々加賀藩の流刑先だった。

寄付にあたり、能登島に訪問した際に聞いた話です。

流刑にされた人は身分の高い人が多く、能登島の住民は流刑された人達のお世話をしていたこともあったのだそうです。流刑されてきた加賀藩士の寺島蔵人(てらしまくらんど)は、そのお礼に、能登島の人達に絵を教えていたという逸話もありました。このエピソードにかけて能登島への寄付を決めたわけではないのですが、PRISONART の寄付先としてなにか運命的なものを感じました。能登島に向かう道中、被災地の様子も目の当たりにしました。浮き上がったマンホール、鳥居や灯籠が崩れた神社。道路もまだまだ工事中の部分が多い状態でした。近郊の有名温泉地の旅館もほとんど休業しており、仮設住宅もいまだ満床だそうです。住めないほど建物が崩れているというわけではなく、運転ができないほど地面が裂けたり凹んだりしているというわけではありません。しかしながら、まだまだ復興までは道半ばの印象を受けました(2024年11月現在)。

少しでも早く復興が進むことを祈ります。

発行日 2025/3/28

発行者 株式会社小学館集英社プロダクション

連絡先 パブリックサービス事業部内 PRISON ART 事務局
TEL : 03-3515-6779

最新情報は Instagram で配信中！
小学館集英社プロダクションの矯正教育事業について
note でも様々な情報を配信しています！



Instagram



note